

第185期 定時株主総会

# 招集ご通知

## 開催日時

2023年6月28日（水曜日）  
午前10時（受付開始 午前9時）

## 開催場所

名古屋市中区栄二丁目10番19号  
名古屋商工会議所 3階 第5会議室

## 議 案

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）4名選任の件
- 第3号議案 監査等委員である取締役4名選任の件
- 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

 豊和工業株式会社

### 【出席のご検討について】

新型コロナウイルスの感染予防措置を講じた上で開催いたしますが、開催日時点での流行状況やご自身の健康状態をご考慮いただき、当日の出席についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに第185期定時株主総会招集ご通知をお届けいたします。

当社では、当事業年度よりスタートした新しい中期経営計画におきましては、安定路線から成長路線に舵を切り、スピード感と戦略性のある経営により株主様をはじめステークホルダーの皆様にも認めていただける企業価値向上の実現に努めております。

このためには、成長分野を見極めて、メリハリのある事業ポートフォリオ戦略を展開し、事業全体の経営効率を向上させていくこと、それに見合った組織体制を構築することで、各事業年度で着実に企業改革を進め、目標数値の達成を目指すことといたしております。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2023年6月

代表取締役社長

塚本 高広

## 経営理念

### 経営の基本方針

顧客、株主、取引先、従業員の信頼と期待に応えるため、収益力の向上を図ることにより企業価値を高めることを経営の基本としており、株主への利益還元と顧客に満足される製品を提供することを重要な経営目標と位置付けております。

### 行動規範

「ものづくりを通じて、社会に貢献し、企業価値の向上を目指します」

- 一. より良い商品とサービスを提供し、顧客の期待と信頼に応えます
- 一. コンプライアンスを重視し、社会から信頼される会社であり続けます
- 一. 議論・対話を尽くし、活力ある企業風土を醸成します

---

## 目次

---

	(頁)
第185期定時株主総会招集ご通知	3
[株主総会参考書類]	
第1号議案 剰余金処分の件	8
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）4名選任の件	9
第3号議案 監査等委員である取締役4名選任の件	14
第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件	19
[添付書類]	
事業報告	22
連結計算書類	40
計算書類	44
連結計算書類に係る会計監査報告書 謄本	48
計算書類に係る会計監査報告書 謄本	50
監査等委員会の監査報告書 謄本	52
[ご参考]	
株主メモ	54

# 株主各位

証券コード 6203  
2023年6月8日  
(電子提供措置の開始日 2023年5月24日)  
愛知県清須市須ヶ口1900番地1  
**豊和工業株式会社**  
代表取締役社長 塚本高広

## 第185期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第185期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、以下のウェブサイトアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

当社ウェブサイト <https://www.howa.co.jp/>



（上記ウェブサイトアクセスいただき、メニューより「IR情報」「IRライブラリー」「株主総会関連資料」を順に選択いただき、ご確認ください。）

また、電子提供措置事項は、当社ウェブサイトのほか、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下よりご確認ください。

東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

（上記の東証ウェブサイトアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「豊和工業」または「コード」に当社証券コード「6203」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類／PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知／株主総会資料」欄よりご確認ください。）

なお、当日のご出席に代えて、以下のいずれかの方法によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権の行使をしてくださいますようお願い申し上げます。

【書面（郵送）による議決権行使の場合】

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2023年6月27日（火曜日）午後5時までに到着するようご返送ください。

【電磁的方法（インターネット等）による議決権行使の場合】

当社指定の議決権行使ウェブサイト（<https://www.web54.net>）にアクセスしていただき、画面の案内に従って、2023年6月27日（火曜日）午後5時までに、議案に対する賛否をご入力ください。なお、インターネット等による議決権行使に際しましては、7頁の「電磁的方法（インターネット等）による議決権行使のご案内」をご確認くださいようお願い申し上げます。

敬 具

---

記

1. 日 時 2023年6月28日（水曜日）午前10時（受付開始 午前9時）
2. 場 所 名古屋市中区栄二丁目10番19号  
名古屋商工会議所 3階 第5会議室
3. 目的事項 報告事項
  1. 第185期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）  
事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第185期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）  
計算書類報告の件

決議事項 第1号議案 剰余金処分の件  
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）4名選任の件  
第3号議案 監査等委員である取締役4名選任の件  
第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
4. 招集にあたっての  
決定事項
  - (1) 書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。
  - (2) 代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますので、ご了承ください。

---

以 上

- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。また、資源節約のため、本招集ご通知をご持参いただきますようお願い申し上げます。
- ◎当日の受付開始は午前9時を予定しております。
- ◎当日、当社係員は、ノーネクタイの軽装（クールビズ）にて対応させていただきます。株主の皆様におかれましても、軽装にてご出席いただきますようお願い申し上げます。
- ◎株主総会にご出席の株主の皆様へのお土産のご用意はございません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。
- ◎本株主総会におきましては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りしております。ただし、法令および当社定款第17条第2項の規定に基づき、次に掲げる事項を除いております。
  - ① 連結計算書類の「連結注記表」
  - ② 計算書類の「個別注記表」したがって、当該書面に記載しております連結計算書類および計算書類は、会計監査人および監査等委員会が会計監査報告書および監査報告書の作成に際して監査した連結計算書類および計算書類の一部であります。
- ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイトおよび東証ウェブサイトにおいて、その旨、修正前および修正後の事項を掲載いたします。
- ◎決議のご通知につきましては、送付せず株主総会終了後に、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載いたします。

#### **<新型コロナウイルス感染防止への株主総会当日の対応について>**

- ◎当社役員および係員は、マスク着用にて対応させていただきます。
- ◎株主様のマスク着用に関しましては、国の指針に従いご自身の判断に委ねさせていただきますが、状況によってはマスクの着用をお願いすることがございますので、ご了承ください。
- ◎新型コロナウイルス感染症の罹患等が疑われる方は、入場制限等をさせていただく場合がございます。  
なお、上記に関わらず感染の状況等を考慮し、感染防止の措置を講じる場合があります。また、今後の状況により株主総会の運営に大きな変更が生じる場合は、インターネット上の当社ウェブサイトにおいてお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願い申し上げます。

## 議決権行使についてのご案内

株主総会参考書類をご検討いただき、以下のいずれかの方法により、議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

### 株主総会へご出席されない場合



#### 書面（郵送）による議決権行使

**行使期限** 2023年6月27日（火曜日）午後5時到着分まで

議決権行使書用紙に各議案の賛否をご表示いただき、上記行使期限までに到着するようご返送ください。



#### 電磁的方法（インターネット等）による議決権行使

**行使期限** 2023年6月27日（火曜日）午後5時行使完了分まで

次頁の案内に従って、各議案の賛否を、上記行使期限までに入力してください。

### 株主総会へご出席される場合



**日時** 2023年6月28日（水曜日）午前10時 ※受付開始 午前9時

**場所** 名古屋市中区栄二丁目10番19号  
名古屋商工会議所 3階 第5会議室

議決権行使書用紙を会場受付へご提出ください。

# 電磁的方法（インターネット等）による議決権行使のご案内

行使期限 2023年6月27日（火曜日）午後5時入力完了分まで

## QRコードを読み取る方法「スマート行使」

- 1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを読み取ってください。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

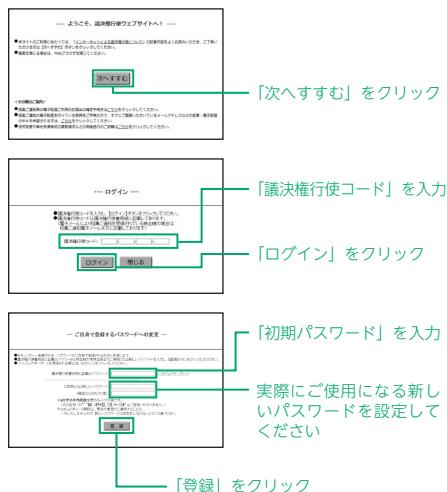


※議決権行使書はイメージです。

## 議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://www.web54.net>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。
- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。
- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。
- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



書面（郵送）およびインターネット等の両方で議決権行使をされた場合は、インターネット等による議決権行使を有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。また、インターネット等により複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。

### 【インターネット等議決権行使に関するお問合せ】

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル電話番号：0120-652-031（フリーダイヤル）

（受付時間 9：00～21：00）

### 【機関投資家の皆様へ】

株式会社ICJが運営する議決権電子行使プラットフォームのご利用を事前に申し込まれた場合は、当該プラットフォームにより議決権を行使いただけます。

# 株主総会参考書類

## 第1号議案

## 剰余金処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

### 期末配当に関する事項

当社は、工作機械を中心に受注生産を行っており、国内外の景気変動などによる設備投資動向に受注が左右され、業績は年によってかなりの幅で変動するため、中長期的な観点から安定的、継続的な配当の維持を基本としつつ、利益が増加した場合は、配当性向30%（1株につき配当20円以上）を目標として、株主還元を強化する方針としております。

当期の期末配当につきましては、当期の業績、当社グループを取り巻く経営環境、将来の事業展開に備えた内部留保、安定配当の継続等を総合的に勘案し、以下のとおりとさせていただきますと存じます。

#### 配当財産の種類

金銭

#### 配当財産の割当てに関する事項

当社普通株式1株につき金 **20円**

#### およびその総額

配当総額 **240,906,760円**

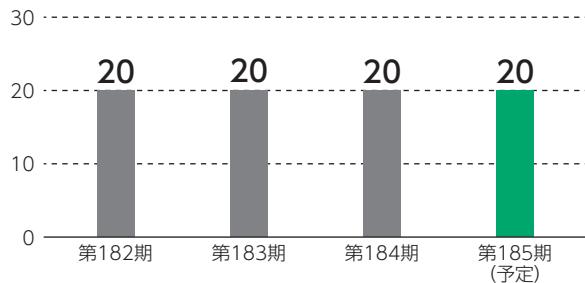
#### 剰余金の配当が効力を生じる日

2023年6月29日

### <ご参考>

#### 配当金の推移

(単位：円)



## 取締役（監査等委員である取締役を除く）4名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く）4名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役（監査等委員である取締役を除く）4名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会は、全ての取締役（監査等委員である取締役を除く）候補者について適任であると判断しております。

取締役（監査等委員である取締役を除く）候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位・担当	当期取締役会出席率	属性
1	塚本 高広	代表取締役社長 事業部門長	100%	再任
2	石原 啓充	常務取締役総務部門長 兼経理部長 兼適正時間管理、基幹システム適正化推進担当	100%	再任
3	吉田 匡宏	取締役 事業部門技術開発統轄 兼建材事業部長 兼技術部長 兼出来高向上、環境・DX、基幹システム適正化推進担当	100%	再任
4	渡辺 健司	取締役 機械事業部長	100%	再任

**再任** 再任取締役候補者

候補者番号

1

再任

つかもと たかひろ  
**塚本 高広**

(1954年7月27日) 性別：男

所有する当社の株式数 24,462 株

取締役会出席状況 10/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

- 1978年11月 当社へ入社
- 2003年6月 当社機械事業部営業グループ部長
- 2003年12月 ホーワマシナリーシンガポール株式会社取締役社長
- 2004年5月 当社機械事業部工作機械グループ部長
- 2005年6月 当社取締役機械事業部工作機械グループ営業担当部長
- 2007年6月 当社取締役機械事業部長
- 2011年6月 当社常務取締役事業部門長兼機械事業部長
- 2015年6月 当社専務取締役事業部門長
- 2016年6月 当社代表取締役社長兼事業部門長
- 2017年4月 当社代表取締役社長兼事業部門長兼特装車両事業部長
- 2018年7月 当社代表取締役社長兼事業部門長（現任）

## 当社との特別の利害関係

塚本高広氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 取締役候補者とした理由

塚本高広氏を取締役候補者とした理由は、入社以来、主に事業部門の営業関連業務に従事し、海外現地法人の取締役社長を務める等、グローバルな事業経営に関する見識と豊富な職務経験を有することを踏まえ、引き続き取締役として適任と判断しました。

(注) 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員 の状況」に記載のとおりです。塚本高広氏が取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

候補者番号

2

再任

いしはら ひろみつ  
石原 啓充

(1959年1月15日) 性別：男

所有する当社の株式数 16,367 株

取締役会出席状況 10/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

1981年4月 当社へ入社  
2003年6月 当社人事部長  
2007年6月 当社取締役人事部長  
2008年4月 当社取締役総務部門長兼人事部長  
2008年6月 当社取締役総務部門長兼総務部長兼人事部長  
2013年6月 当社常務取締役総務部門長兼総務部長  
**2017年5月 豊和（天津）机床有限公司董事長（現任）**  
2017年7月 当社常務取締役総務部門長兼総務部長兼法務室長  
2018年7月 当社常務取締役総務部門長兼法務室長  
2020年1月 当社常務取締役総務部門長兼法務室長兼新基幹システムプロジェクト推進室長  
2021年7月 当社常務取締役総務部門長兼基幹システム定着化・適正時間管理推進担当  
2023年1月 当社常務取締役総務部門長兼適正時間管理、基幹システム適正化推進担当  
**2023年2月 当社常務取締役総務部門長兼経理部長兼適正時間管理、基幹システム適正化推進担当（現任）**

## 当社との特別の利害関係

石原啓充氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 取締役候補者とした理由

石原啓充氏を取締役候補者とした理由は、入社以来、主に総務、人事、法務関連業務に従事し、現在は、総務部門長を務め管理部門を統括する等、豊富な職務経験を有することを踏まえ、引き続き取締役として適任と判断しました。

(注) 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社従業員の状況」に記載のとおりです。石原啓充氏が取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

候補者番号

3

再任

よし だ まさ ひろ  
吉田 匡宏

(1959年3月12日) 性別：男

所有する当社の株式数 13,755 株

取締役会出席状況 10/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

- 1981年4月 当社へ入社
- 2004年7月 当社機械事業部生産グループ部長
- 2007年6月 当社取締役機械事業部生産グループ部長
- 2009年6月 当社取締役退任  
当社執行役員機械事業部生産グループ部長
- 2010年5月 当社執行役員機械事業部SMディビジョン長兼QCディビジョン長
- 2011年6月 当社取締役機械事業部CEディビジョン長兼技術部管掌
- 2015年6月 当社取締役事業部門設計統轄兼技術部管掌
- 2017年7月 当社取締役事業部門技術開発統轄兼建材事業部長
- 2020年11月 当社取締役事業部門技術開発統轄兼建材事業部長兼技術部長
- 2021年7月 当社取締役事業部門技術開発統轄兼建材事業部長兼技術部長  
兼出来高向上・環境・DX推進担当
- 2023年1月 当社取締役事業部門技術開発統轄兼建材事業部長兼技術部長  
兼出来高向上、環境・DX、基幹システム適正化推進担当（現任）

## 当社との特別の利害関係

吉田匡宏氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 取締役候補者とした理由

吉田匡宏氏を取締役候補者とした理由は、入社以来、主に設計、生産管理、品質管理関連業務に従事し、製造技術全般に関する幅広い見識と豊富な職務経験を有することを踏まえ、引き続き取締役として適任と判断しました。

(注) 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社員の状況」に記載のとおりです。吉田匡宏氏が取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

候補者番号

4

再任

わた なべ けん じ  
**渡辺 健司**

(1957年9月15日) 性別：男

所有する当社の株式数

12,955 株

取締役会出席状況

10/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

- 1981年4月 当社へ入社
- 2005年6月 当社機械事業部工作機械グループ主幹
- 2008年6月 当社機械事業部工機営業グループ部長
- 2011年6月 当社執行役員機械事業部CPディビジョン長
- 2015年6月 当社取締役機械事業部長
- 2019年7月 当社取締役機械事業部長兼機器事業化準備室長
- 2020年4月 当社取締役機械事業部長兼機器事業化準備室長兼機器グループ長
- 2020年7月 当社取締役機械事業部長兼機器事業化準備室長
- 2021年7月 当社取締役機械事業部長兼機器事業化推進室長
- 2023年1月 当社取締役機械事業部長（現任）

## 当社との特別の利害関係

渡辺健司氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 取締役候補者とした理由

渡辺健司氏を取締役候補者とした理由は、入社以来、主に工作機械部門の営業、企画、生産管理関連業務に従事し、工作機械関連事業のエキスパートとして高い見識と豊富な業務経験を有することを踏まえ、引き続き取締役として適任と判断しました。

(注) 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員 の状況」に記載のとおりです。渡辺健司氏が取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

### 第3号議案

## 監査等委員である取締役4名選任の件

監査等委員である取締役4名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査等委員である取締役4名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は次のとおりであります。

候補者 番号	氏名	現在の当社における 地位・担当	当期取締役会および 監査等委員会出席率	属性
1	牧野 康二	取締役（監査等委員）	(取締役会) 100% (監査等委員会) 100%	再任
2	渡邊 一平	取締役（監査等委員）	(取締役会) 90% (監査等委員会) 90%	再任 社外 独立
3	金剛 宣邦	取締役（監査等委員）	(取締役会) 100% (監査等委員会) 100%	再任 社外 独立
4	田中 雅子	取締役（監査等委員）	(取締役会) 100% (監査等委員会) 100%	再任 社外 独立

**再任** 再任取締役候補者

**社外** 社外取締役候補者

**独立** 証券取引所の定めに基づく独立役員

候補者番号

1

再任

まきの やすじ  
**牧野 康二**

(1958年3月30日) 性別：男

所有する当社の株式数	5,700 株
取締役会出席状況	10/10 <input type="checkbox"/>
監査等委員会出席状況	10/10 <input type="checkbox"/>

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

1980年4月 当社へ入社  
2008年4月 当社経理部長  
2009年6月 当社執行役員経理部長  
2011年6月 当社取締役経理部長  
2019年6月 当社取締役[常勤監査等委員]  
2021年6月 当社取締役[監査等委員]（現任）

## 当社との特別の利害関係

牧野康二氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 取締役候補者とした理由

牧野康二氏を監査等委員である取締役候補者とした理由は、入社以来、主に財務、経理関連業務に従事し、財務分野での幅広い見識を有することに加え、2019年6月から当社の監査等委員である取締役に就任しており、引き続き監査等委員である取締役として適任と判断しました。

(注) 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員 の状況」に記載のとおりです。牧野康二氏が監査等委員である取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

候補者番号

2

再任

社外

独立

わた なべ いっ ぺい  
**渡 邊 一 平**

(1949年12月7日) 性別：男

所有する当社の株式数	一株
取締役会出席状況	9/10 回
監査等委員会出席状況	9/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

1978年4月 弁護士登録  
1978年4月 佐治・太田法律事務所入所  
1991年6月 太田・渡辺法律事務所開設  
2016年4月 当社社外取締役[監査等委員]（現任）  
2016年6月 リンナイ株式会社社外監査役（現任）  
2020年1月 弁護士法人TRUTH&TRUST開設 代表社員（現任）

## 当社との特別の利害関係

渡邊一平氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要

渡邊一平氏は、社外取締役候補者であります。同氏を社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要は、直接企業経営に関与された経験はありませんが、長年に亘り弁護士として活躍されており、法律知識が豊富で、その専門的見地を、当社の監査・監督に反映していただくためであります。また、同氏は2016年4月から当社の監査等委員である社外取締役に就任しており、引き続き監査等委員である社外取締役として適任と判断いたしました。

- (注) 1. 渡邊一平氏は、現在、当社の監査等委員である社外取締役にありますが、在任期間中は、本株主総会の終結の時をもって7年2ヶ月となります。
2. 当社は、渡邊一平氏を東京証券取引所および名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届けております。
3. 当社と渡邊一平氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。  
本議案において渡邊一平氏の選任が承認された場合には、当社と同氏との間の当該契約を継続する予定であります。  
当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額であります。
4. 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員 の状況」に記載のとおりです。渡邊一平氏が監査等委員である取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。  
また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

候補者番号

3

再任

社外

独立

こんごう せんぽう  
金剛 宣邦

(1953年7月10日) 性別：男

所有する当社の株式数	一株
取締役会出席状況	10/10 回
監査等委員会出席状況	10/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

1977年4月 株式会社東海銀行（現 株式会社三菱UFJ銀行）入行  
2004年4月 岡谷鋼機株式会社入社  
2010年5月 同社取締役  
2015年5月 同社常務取締役  
2017年6月 当社社外取締役[監査等委員]（現任）  
2021年5月 岡谷鋼機株式会社顧問

## 当社との特別の利害関係

金剛宣邦氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要

金剛宣邦氏は、社外取締役候補者であります。同氏を社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要は、長年にわたり、岡谷鋼機株式会社の取締役として企業経営に携わられた豊富な経験や識見を活かし、経営全般に対する監督と有効な助言をいただくためであります。また、同氏は2017年6月から当社の監査等委員である社外取締役に就任しており、引き続き監査等委員である社外取締役として適任と判断いたしました。

- (注) 1. 金剛宣邦氏は、現在、当社の監査等委員である社外取締役であります。在任期間は、本株主総会の終結の時をもって6年となります。
2. 当社は、金剛宣邦氏を東京証券取引所および名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届けております。
3. 当社と金剛宣邦氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。本議案において金剛宣邦氏の選任が承認された場合には、当社と同氏との間の当該契約を継続する予定であります。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額であります。
4. 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員 の状況」に記載のとおりです。金剛宣邦氏が監査等委員である取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含められることとなります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

候補者番号

4

再任

社外

独立

た な か ま さ こ  
田 中 雅 子

(1958年12月4日) 性別：女

所有する当社の株式数 一株  
取締役会出席状況 10/10 回  
監査等委員会出席状況 10/10 回

## 略歴、当社における地位および担当（重要な兼職の状況）

1981年4月 古河電気工業株式会社入社  
2013年6月 古河電池株式会社監査役  
2015年4月 古河電気工業株式会社執行役員  
2021年6月 当社社外取締役[監査等委員]（現任）  
2022年6月 双葉電子工業株式会社社外取締役（現任）

## 当社との特別の利害関係

田中雅子氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### 社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要

田中雅子氏は、社外取締役候補者であります。同氏を社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要は、取締役会の多様性の確保および古河電気工業株式会社での企業経営における豊富な経験や識見を活かし、経営全般に対する監督と有効な助言をいただくためであります。また、同氏は2021年6月から当社の監査等委員である社外取締役に就任しており、引き続き監査等委員である社外取締役として適任と判断いたしました。

- (注) 1. 田中雅子氏は、現在、当社の監査等委員である社外取締役であります。在任期間は、本株主総会の終結の時をもって2年となります。
2. 当社は、田中雅子氏を東京証券取引所および名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届けております。
3. 当社と田中雅子氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。
- 本議案において田中雅子氏の選任が承認された場合には、当社と同氏との間の当該契約を継続する予定であります。
- 当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額であります。
4. 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員員の状況」に記載のとおりです。田中雅子氏が監査等委員である取締役に選任され就任した場合には、引き続き、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。
- また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

## 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、水野泰二氏を補欠の監査等委員である取締役として選任することをお願いしたいと存じます。

なお、水野泰二氏の選任の効力は、就任前に限り、監査等委員会の同意を得て、取締役会決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案につきましては監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員である取締役候補者は次のとおりであります

候補者

みず の たい じ  
水野 泰二

(1962年7月22日) 性別：男

所有する当社の株式数 — 株

### 略歴（重要な兼職の状況）

1999年4月 弁護士登録

1999年4月 齋藤勉法律事務所入所

2004年4月 本町シティ法律事務所開設  
パートナー弁護士（現任）

### 当社との特別の利害関係

水野泰二氏と当社との間には、特別な利害関係はありません。

### 補欠の監査等委員である社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要

水野泰二氏を補欠の監査等委員である社外取締役候補者とした理由は、直接企業経営に関与された経験はありませんが、長年の弁護士として培われた法律知識を、当社の監査・監督に活かしていただくためであります。また、弁護士としての専門的見地から企業法務に関して高い実績をあげているため、監査等委員である取締役として適任と判断いたしました。

- (注) 1. 水野泰二氏は、補欠の監査等委員である社外取締役候補者であります。
2. 水野泰二氏が監査等委員である社外取締役に就任することとなった場合には、当社は水野泰二氏を東京証券取引所および名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届ける予定であります。
3. 水野泰二氏が監査等委員である社外取締役に就任することとなった場合には、当社は水野泰二氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。
- 当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額であります。
4. 当社は保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告「2. (3)会社役員の状況」に記載のとおりです。水野泰二氏が監査等委員である社外取締役に選任され就任した場合には、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。
- また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

## (ご参考)

### 取締役のスキルマトリックス

第2号および第3号議案が原案どおり可決されますと、当社の取締役の主な専門性と経験は次のとおりとなります。

区分	氏名	専門性と経験							
		財務・会計	企業経営	法務 コンプライ アンス リスク管理	グローバル	営業 マーケテ ィング	研究開発 ICT DX	人事 労務 人材開発	ESG サステナ ビリティ SDGs
取締役	塚本高広	●	●		●	●	●	●	●
	石原啓充	●	●	●				●	●
	吉田匡宏		●			●	●		●
	渡辺健司		●		●	●			
取締役 (監査等委員)	牧野康二	●							
	渡邊一平			●					
	金剛宣邦	●	●	●	●				
	田中雅子		●	●				●	●

### 取締役候補者の選任の方針および手続

#### ●取締役（監査等委員を除く）の選任方法および手続

取締役（監査等委員を除く）の評価方法については、下記の方法により、公正で納得性の高い評価を行っております。

- ・代表取締役社長との定期的な面談による評価
- ・取締役（監査等委員）との面談による評価
- ・過半数が社外取締役で構成される指名報酬委員会における評価

取締役（監査等委員を除く）の選任にあたり、代表取締役社長は、これらの評価に基づいて各取締役（監査等委員を除く）の再任の可否や、新任取締役（監査等委員を除く）登用の際には執行役員を含む経営幹部の中から候補者を選任すべく検討を行った上で、取締役会に次期取締役（監査等委員を除く）体制を提案しております。

#### ●取締役（監査等委員）の選任方法および手続

取締役（監査等委員）の選任にあたり、代表取締役社長は、指名報酬委員会の評価に基づいて候補者を選任すべく検討を行った上で、取締役会に次期取締役（監査等委員）体制を提案しております。

なお、経営の監査・監視を適切に行えるよう、求められる資質を次のとおりしております。

企業経営あるいは、財務、会計、法務などの高い専門性を有する者

以上

## 1. 企業集団の状況

### (1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、ウィズコロナのもとで、社会経済活動の正常化が着実に進む中、各種政策の効果もあって、景気に持ち直しの動きが見られました。一方で、ウクライナ紛争の長期化などの影響により原材料およびエネルギー価格の高騰を受け、急激な物価の上昇などが発生しており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、当年度よりスタートした新しい中期経営計画に基づき、これまでの安定路線から成長路線に舵を切り、スピード感と戦略性のある経営の意思決定による企業価値向上の実現に努めてまいりました。

しかしながら、新中期経営計画の本格成長に向けた基礎固めの時期と位置づける当年度の業績は、売上高は前期と同水準を保ったものの、利益につきましては、前期を大幅に下回る結果となりました。

当社グループの事業別の状況は次のとおりです。

工作機械は、主要顧客である自動車関連業界において、各種部品の納期遅延や中国におけるゼロコロナ政策の影響で設備需要が減退したことから、前期に比べ、売上高は19%減の35億3千万円となりました。受注残につきましては、xEV（電動車）関連を中心とした設備投資の需要を受け、143%増の30億円となりました。

空圧機器は、チャックでは母機となる旋盤向けの需要が増加しましたが、シリンダでは電子部品・半導体関連向けの需要が減速したことから、前期に比べ、売上高は横ばいの16億4千万円となり、受注残につきましても、7%増の4億8千万円となりました。

電子機械は、中国スマートフォンの販売減少の影響を大きく受けて主要顧客の設備投資が見送られたものの、前年度受注した仮積層機の売上げが当期にずれ込んだ結果、前期に比べ、売上高は29%増の12億7千万円となり、受注残につきましては、88%減の1億4千万円となりました。

工作機械関連全体としましては、前期に比べ、売上高は7%減の64億5千万円となり、受注残につきましては23%増の36億3千万円となりました。

火器は、国内では防衛省向け20式5.56mm小銃の量産が本格化し、迫撃砲など他の装備品の納入数も増加しました。また海外向けでは、米国市場を中心としたスポーツライフルの需要が増加したことに加え、為替相場の円安進行の影響により、全体として前期に比べ、売上高は29%増の39億4千万円となりました。受注残につきましても、防衛省向け小銃の良好な受注状況や小銃用附属品の受注開始、海外向けスポーツライフルなどにより増加し、14%増の33億1千万円となりました。

特装車両は、産業用清掃機が販売増となったものの、路面清掃車がトラックシャシの納期遅延による生産減となったことから、前期に比べ、売上高は7%減の26億4千万円となりました。受注残につきましても、産業用清掃機は増加したものの、路面清掃車がシャシのモデルチェンジの影響により減少し、33%減の4億6千万円となりました。

建材は、一般サッシが大型案件の生産遅延により減少し、防音サッシもコロナ禍の影響で防衛省の予算執行の遅れ等により減少しました。更に防水製品も減少したことから、前期に比べ、売上高は8%減の27億1千万円となりました。受注残につきましては、一般サッシ、防音サッシともに当期予定分が翌期にずれ込んだ結果、前期に比べ、78%増の7億9千万円となりました。

不動産賃貸、鉄鋼など上記以外の事業は、前期に比べ、売上高はほぼ横ばいの39億6千万円となり、受注残につきましては、29%増の8億1千万円となりました。

以上の結果、当連結会計年度は、前期に比べ、売上高は横ばいの197億円となり、受注残につきましては、18%増の90億2千万円となりました。

損益につきましては、火器において円安の進行により海外向けスポーツライフルの輸出採算が改善したものの、工作機械、特装車両の売上減少、建材は売上減少に加えて原材料仕入価格の高騰による収益悪化要因もあり、営業利益は4億5千万円となりました。また、営業外収益に受取配当金、助成金収入などを計上した結果、経常利益は6億2千万円、親会社株主に帰属する当期純利益は5億2千万円となりました。

## (2) 対処すべき課題

当社では、当年度より新しい3ヶ年の中期経営計画をスタートさせ、各種の施策に取り組んでおります。

中期経営計画2年目となる今期につきましては、厳しい業績を予想していることから、目標達成に向けて事業ポートフォリオ戦略に基づき、強弱をつけた経営資源の投入による経営効率の最適化、各事業においては、初年度の基礎固めを活かし、成長領域への挑戦による稼ぐ力の向上と、継続領域における競合との差別化を図ってまいります。また、高品質で多様な製品・サービスの提供を通じて、持続可能な社会の実現と当社自身の持続的な成長を両立させ、ものづくりの未来の発展に貢献していくため、透明性の高い企業統治のもと、環境課題の解決や社会との調和にも意欲的に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## (3) 設備投資の状況

当連結会計年度中において実施いたしました企業集団の設備投資の総額は6億91百万円で、その主なものは次のとおりであります。

愛知県清須市                      工作機械製造用設備の更新

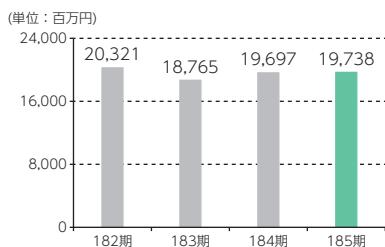
## (4) 資金調達の状況

当連結会計年度中の資金調達につきましては、特記すべき事項はありません。

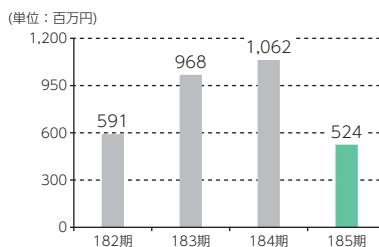
## (5) 財産および損益の状況の推移

区分	第182期 (2020年3月期)	第183期 (2021年3月期)	第184期 (2022年3月期)	第185期 (当連結会計年度) (2023年3月期)
売上高(百万円)	20,321	18,765	19,697	19,738
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	591	968	1,062	524
1株当たり当期純利益(円)	47.75	78.18	86.08	43.56
総資産(百万円)	24,114	26,461	27,673	27,623
純資産(百万円)	14,991	16,114	16,890	17,354
1株当たり純資産額(円)	1,210.30	1,299.91	1,403.57	1,440.76

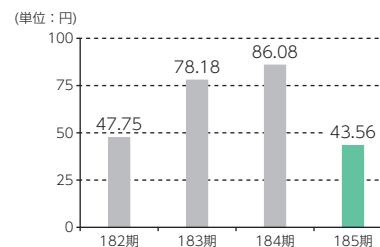
### ●売上高



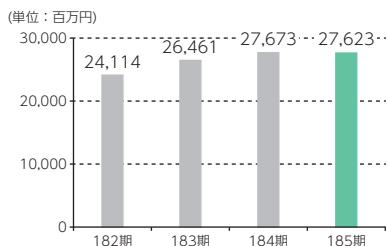
### ●親会社株主に帰属する当期純利益



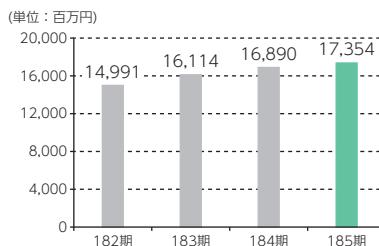
### ●1株当たり当期純利益



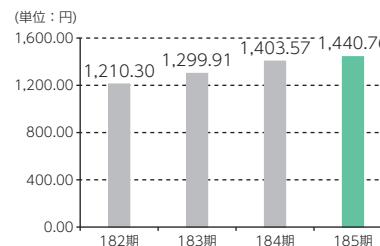
### ●総資産



### ●純資産



### ●1株当たり純資産額



(6) 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
中日運送株式会社	108百万円	100.0%	当社製品の荷造および輸送
豊友物産株式会社	84	100.0	当社製品の販売
株式会社豊苑	20	100.0	緑化および造園
丰和（天津）机床有限公司	6,000千 米ドル	100.0	当社製品の販売
ホーワスカメシン インドネシア株式会社	1,690千 米ドル	99.7	当社製品の販売 およびアフターサービス

- (注) 1. 丰和（天津）机床有限公司は、在中国現地法人であります。  
 2. ホーワスカメシンインドネシア株式会社は、在インドネシア現地法人であります。  
 3. ホーワマシナリーシンガポール株式会社は、2022年10月15日をもって清算終了いたしました。

(7) 主要な事業内容（2023年3月31日現在）

事業区分	部門	品目
工作機械関連	工作機械	マシニングセンタ、トランスファーマシン、精密中ぐり盤、深穴ボール盤、その他各種専用機、自動化装置、工作機用ユニット
	空油圧機器	パワーチャック、固定シリンダ、回転シリンダ、ロッドレスシリンダ、クランプシリンダ、その他空油圧機器
	電子機械	セラミック電子部品関連設備、プリント基板用露光装置、実装基板検査装置
火器		小銃、銃剣、自動てき弾銃、迫撃砲、発煙弾発射機、発煙弾、スポーツライフル
特装車両		路面清掃車、産業用清掃機、床面自動洗浄機、防弾車両等特殊車両
建材		アルミサッシ・ドア、樹脂サッシ、スチールサッシ・ドア、シールドドア、高気密ドア、防水板・防水扉・防水自動ドア
その他		不動産賃貸、鉄鋼製品 など

(8) 主要な営業所および工場 (2023年3月31日現在)

名 称	所 在 地
当 社 本店・本社工場 東京 本 社 務 所	愛 知 県 清 須 市 区 東 京 都 千 代 田 区
中 日 運 送 株 式 会 社	本 社 愛 知 県 清 須 市
豊 友 物 産 株 式 会 社	本 社 愛 知 県 清 須 市
株 式 会 社 豊 苑	本 社 愛 知 県 清 須 市
丰 和 ( 天 津 ) 机 床 有 限 公 司	本 社 中 国
ホーワスカメシンインドネシア株式会社	本 社 イ ン ド ネ シ ア

(注) ホーワマシナリーシンガポール株式会社は、2022年10月15日をもって清算終了いたしました。

(9) 使用人の状況 (2023年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

事 業 区 分	使 用 人 数	前 連 結 会 計 年 度 末 比 増 減
工 作 機 械 関 連	297名	22名減
火 器	122	2名減
特 装 車 両	84	1名減
建 材	99	8名減
不 動 産 賃 貸	—	—
国 内 販 売 子 会 社	22	1名増
国 内 運 送 子 会 社	89	9名減
そ の 他	10	4名減
全 社 ( 共 通 )	74	4名減
合 計	797	49名減

- (注) 1. 使用人数は、就業人員であります。  
2. 臨時従業員数については、従業員の100分の10未満であるため、記載を省略しております。  
3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
666名	38名減	45.7歳	17.3年

(注) 使用人数は、就業人員であります。

(10) 主要な借入先の状況 (2023年3月31日現在)

借入先	借入額
株式会社十六銀行	640百万円
株式会社三菱UFJ銀行	440

(11) その他企業集団の現況に関する重要な事項

特に記載すべき事項はありません。

## 2. 会社の現況 (2023年3月31日現在)

### (1) 株式の状況

- ① 発行可能株式総数 40,000,000株
- ② 発行済株式の総数 12,548,134株 (うち自己株式502,796株)
- ③ 株主数 12,805名
- ④ 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,142千株	9.4%
J P モ ル ガ ン 証 券 株 式 会 社	563	4.6
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	524	4.3
豊和工業協カグループ持株会	423	3.5
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY - PB	244	2.0
株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行	243	2.0
豊和工業従業員持株会	238	1.9
三井住友信託銀行株式会社	217	1.8
損害保険ジャパン株式会社	179	1.4
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	153	1.2

(注) 1. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

2. 当社は、自己株式502千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

### ⑤ 当事業年度中に職務執行の対価として当社取締役へ交付した株式の状況

区分	株式の種類および数	交付対象者数
取締役 (監査等委員である取締役および社外取締役を除く)	当社普通株式 11,663株	4名

(注) 当社の株式報酬の内容につきましては、事業報告「2. (3) ② 取締役の報酬等」に記載しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員 の 状況

#### ① 取締役 の 氏名等 (2023年3月31日現在)

地 位	氏 名	担 当 お よ び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代 表 取 締 役 社 長	塚 本 高 広	事業部門長
常 務 取 締 役	石 原 啓 充	総務部門長 兼 経理部長 兼 適正時間管理、基幹システム適正化推進担当
取 締 役	吉 田 匡 宏	事業部門技術開発統轄 兼 建材事業部長 兼 技術部長 兼 出来高向上、環境・DX、基幹システム適正化推進担当
取 締 役	渡 辺 健 司	機械事業部長
取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	牧 野 康 二	
取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	渡 邊 一 平	弁護士
取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	金 剛 宣 邦	
取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	田 中 雅 子	

- (注) 1. 取締役 (監査等委員) 渡邊一平、金剛宣邦および田中雅子の3氏は、社外取締役であります。
2. 取締役 (監査等委員) 牧野康二および金剛宣邦の両氏は、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・ 取締役 (監査等委員) 牧野康二氏は、過去に当社の財務、経理関連業務を長年にわたり担当していたことがあり、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
  - ・ 取締役 (監査等委員) 金剛宣邦氏は、金融機関での長年の業務経験があり、また、過去に岡谷鋼機株式会社 の取締役として、財務、経理関連部門を長年にわたり担当していたこともあり、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
3. 当社は、取締役 (監査等委員) 渡邊一平、金剛宣邦および田中雅子の3氏を東京証券取引所および名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。なお、当社は、東京証券取引所および名古屋証券取引所の定める独立性基準を当社の独立社外取締役の独立性判断基準としております。すなわち、以下のいずれかに該当する場合、独立役員として指定しないこととしております。
- ・ 本人または近親者が、当社を主要な取引先とする者またはその業務執行者
  - ・ 本人または近親者が、当社の主要な取引先またはその業務執行者
  - ・ 本人または近親者が、当社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
  - ・ 本人または近親者が、当社の主要株主 (当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
  - ・ 本人または近親者が、当社または当社の子会社の業務執行者

4. 監査等委員会設置会社のもと、監査等委員会が主体となり内部統制システムを通じた組織的な監査を実施しているため、必ずしも常勤者の選定を必要としないことから、常勤の監査等委員を選定しておりません。また、取締役（監査等委員を除く）からの情報収集および重要な社内会議における情報共有ならびに内部監査部門と監査等委員会との十分な連携を可能とすべく、監査等委員会室を設置しております。
5. 当社は、取締役会の諮問機関として指名報酬委員会を設置しており、指名報酬委員会での意見を取締役の評価や報酬、人事に反映することにより、統治機能の強化を図っております。なお、指名報酬委員会は、構成員の過半数を社外取締役とすることにより、取締役会の諮問に対し、透明性・客観性・公平性の高い答申を行っております。また、指名報酬委員会は年4回開催しております。
6. 当社と各社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。  
当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額であります。
7. 役員等賠償責任保険契約の内容の概要  
当社は、保険会社との間で、当社および事業報告25頁「1. (6)重要な子会社の状況」に記載の子会社の取締役、監査役、執行役員および会計監査人（当事業年度に在任していた者を含む。）を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額当社が負担しております。  
当保険契約の内容の概要は、被保険者が、その職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に関する請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により保険会社が補填するものであり、1年毎に契約更新しております。次回更新時には同内容での更新を予定しております。  
なお、当該保険契約では、当社が当該役員に対して損害賠償責任を追及する場合は保険契約の免責事項としており、また、填補する額について限度額を設けることにより、当該役員の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置を講じております。
8. 当事業年度中の取締役担当異動は次のとおりであります。

2023年1月1日付

地 位	氏 名	異 動 前	異 動 後
常 務 取 締 役	石 原 啓 充	総務部門長 兼 基幹システム定着化・適正時間管理推進担当	総務部門長 兼 適正時間管理、基幹システム適正化推進担当
取 締 役	吉 田 匡 宏	事業部門技術開発統轄 兼 建材事業部長 兼 技術部長 兼 出来高向上・環境・DX推進担当	事業部門技術開発統轄 兼 建材事業部長 兼 技術部長 兼 出来高向上、環境・DX、基幹システム適正化推進担当
取 締 役	渡 辺 健 司	機械事業部長 兼 機器事業化推進室長	機械事業部長

2023年2月18日付

地 位	氏 名	異 動 前	異 動 後
常 務 取 締 役	石 原 啓 充	総務部門長 兼 適正時間管理、基幹システム 適正化推進担当	総務部門長 兼 経理部長 兼 適正時間管理、基幹システム適正化 推進担当

9. 当社は経営の迅速化、効率化と業務執行の充実を目的として、執行役員制度を導入しております。執行役員は以下の3名であります。

2022年12月27日付

地 位	氏 名	担 当 お よ び 重 要 な 兼 職 の 状 況
執 行 役 員	関 谷 勝 彦	豊友物産株式会社代表取締役社長
	川 島 健 次	特装車両事業部長
	佐 藤 輝 彦	火器事業部長

## ② 取締役の報酬等

### イ. 取締役の報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、監査等委員である取締役の報酬は固定報酬のみとしております。

取締役（監査等委員を除く）の報酬に関しては、2020年6月25日開催の取締役会において、取締役（監査等委員を除く）の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を定めた取締役報酬規程の改定を決議しております。

報酬の決定にあたっては、取締役会の諮問機関として指名報酬委員会を設置しており、指名報酬委員会での意見を取締役の評価や報酬、人事に反映することにより、統治機能の強化を図っております。なお、指名報酬委員会は、構成員の過半数を社外取締役とすることにより、取締役会の諮問に対し、透明性・客観性・公平性の高い答申を行っております。

なお、取締役会は当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法および決定された報酬等の内容が当該方針と整合していることや、指名報酬委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役（監査等委員を除く）の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は次のとおりです。

#### ①固定報酬に関する方針

職務内容を勘案して決定する基本報酬と役割に応じて決定する役づけ報酬で構成する

#### ②変動報酬に関する方針

短期業績目標達成の動機づけを目的とし、前年度の連結営業利益に基づき役位別に設定した乗率により支給する業績連動報酬と、業績数値だけでは測ることができない貢献度により支給する評価報酬で構成する。ただし、会長および社長については、業績連動報酬のみとし、評価報酬は支給しない

③株式報酬に関する方針

中長期的な企業価値向上を図る動機づけと株主の皆様との価値共有を進めることを目的とし、固定報酬金額の20%相当の譲渡制限付株式を付与する

ロ. 当事業年度に係る報酬等の総額等

区 分	報酬等の 総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	変動報酬	株式報酬	
取締役（監査等委員を除く） （うち社外取締役）	100 (-)	52 (-)	37 (-)	10 (-)	4 (-)
取締役（監査等委員） （うち社外取締役）	22 (14)	22 (14)	-	-	4 (3)
合 計 （うち社外取締役）	122 (14)	75 (14)	37 (-)	10 (-)	8 (3)

- (注) 1. 取締役（監査等委員を除く）の報酬限度額は、2015年6月25日開催の第177期定時株主総会において年額168百万円以内と決議いただいております。なお、取締役（監査等委員を除く）個々の報酬については、取締役会において決議しております。当該株主総会終結時点の取締役（監査等委員を除く）の員数は6名であります。また、当該報酬限度額の範囲内で、2020年6月25日開催の第182期定時株主総会において、株式報酬の額を年額20百万円以内と決議いただいております。なお、取締役（監査等委員を除く）個々の報酬については、取締役会において決議しております。当該株主総会終結時点の取締役（監査等委員を除く）の員数は4名です。
2. 取締役（監査等委員）の報酬限度額は、2015年6月25日の第177期定時株主総会において、年額48百万円と決議いただいております。なお、取締役（監査等委員）個々の報酬については、取締役（監査等委員）の協議により決定しております。当該株主総会終結時点の取締役（監査等委員）の員数は3名であります。
3. 業績連動報酬と評価報酬で構成される変動報酬のうち、業績連動報酬にかかる業績指標は前年度の連結営業利益に基づき役位別に設定した乗率により支給しております。当該指標を選択した理由は短期業績目標達成の動機づけを目的とするためであります。なお、当連結会計年度における当該指標の実績は次のとおりであります。

支給対象月	業績指標	実績 (百万円)
2022年4月～同年6月分	183期連結営業利益 (2021年3月期)	554
2022年7月～2023年3月分	184期連結営業利益 (2022年3月期)	988

4. 株式報酬は当社の普通株式であり、割り当ての際の条件等は「イ. 取締役の報酬等の内容の決定に関する方針等」のとおりであります。また、当事業年度における交付状況は「2. (1) ⑤当事業年度中に職務執行の対価として当社取締役に交付した株式の状況」に記載しております。

③ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況および当社と当該他の法人等との関係

取締役（監査等委員）渡邊一平、金剛宣邦および田中雅子の3氏につきまして、記載すべき他の法人等の業務執行者としての重要な兼職はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	出席状況、発言状況および社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
社 外 取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	渡 邊 一 平	当事業年度に開催された取締役会10回のうち9回、監査等委員会10回のうち9回に出席いたしました。主に弁護士としての専門的見地から適宜質問をするとともに、必要に応じて意見を述べるなど、社外取締役としての職責を十分に果たしております。
社 外 取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	金 剛 宣 邦	当事業年度に開催された取締役会10回全て、監査等委員会10回全てに出席いたしました。企業経営における豊富な経験と見識を活かし、経営全般に対して適宜質問をするとともに、必要に応じて意見を述べるなど、社外取締役としての職責を十分に果たしております。
社 外 取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	田 中 雅 子	当事業年度に開催された取締役会10回全て、監査等委員会10回全てに出席いたしました。企業経営における豊富な経験と見識を活かし、経営全般に対して適宜質問をするとともに、必要に応じて意見を述べるなど、社外取締役としての職責を十分に果たしております。

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称 栄監査法人

② 報酬等の額

	支 払 額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	27百万円
当社および子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	27

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 監査等委員会が会計監査人の報酬等について同意をした理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容および報酬見積りの算出根拠等について、過年度の実績との比較等の必要な検証を行った結果、適切であると判断したため、会計監査人の報酬等について同意を行っております。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他当社の業務ならびに当社および当社子会社から成る企業集団（以下、「グループ」といいます）の業務の適正を確保するための体制についての決定内容は以下のとおりであります。

1. グループ各社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制  
グループ各社は、事業活動における法令、定款、社内規則および企業倫理の遵守を確保するため、「コンプライアンス規程」を制定する。  
グループ各社の役職員がそれぞれの立場でコンプライアンスを充分認識して業務遂行にあたるよう、「行動基準」を定め、マニュアルの配布等を通じて周知徹底する。  
また、グループ各社を対象とした内部通報制度を設けて、役職員がコンプライアンス違反行為を知ったとき、または自らの行動について判断に迷うときは、内部通報窓口へ通報・相談するものとし、通報者に対して、不利な取扱いを行わない。
2. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制  
当社は、稟議書、重要会議の議事録その他職務執行に係る文書・情報を「文書保存規程」等の社内規則に従い適切に保存・管理する。
3. グループ各社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
当社は、コンプライアンス、情報セキュリティ、品質、環境、輸出管理および災害等に係るリスクの予防・管理を行うため、「リスク管理規程」を制定するとともに、リスク管理委員会を設置してリスク管理体制を構築する。  
また、当社は、子会社に対し、経営上の重要事項について当社への報告または承認を義務づけ、グループ各社全体としてリスク管理を行う。

4. グループ各社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
当社は、「職務権限規程」に基づく責任と権限および意思決定ルールにより、取締役の職務執行が適正かつ効率的に行われる体制をとる。  
当社は、グループ各社を管理する担当部署を設置し、グループ各社の職務執行が適正かつ効率的に行われるために必要な管理を行う。  
グループ各社は、年度予算を設定し、当該予算を達成するために効率的な職務執行を行う。
5. グループ各社における業務の適正を確保するための体制  
当社は、他社との取引、会計処理等の業務活動が会社の経営方針、法令・社内規則に従い適正かつ効率的に行われているかを監査するため、「内部監査規程」を制定するとともに、内部監査委員会を設置して、グループ各社に対する内部監査を実施し、グループ各社の業務の適正を確保する。  
また、当社は、子会社に対し、業務執行状況・財務状況等を定期的に当社に報告させるとともに、経営上の重要事項が発生した場合は直ちに報告させる。
6. 当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に関する事項、当該取締役および使用人の他の取締役（監査等委員である取締役を除く）からの独立性に関する事項ならびに監査等委員会の当該取締役および使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査等委員会の職務について、監査等委員会室が補助する。  
監査等委員会の職務を補助すべき使用人は、補助業務に関して、もっぱら監査等委員会の指揮命令に従うものとする。  
また、監査等委員会の職務を補助すべき使用人の人事異動および人事評価については、監査等委員会の意見を尊重する。
7. グループ各社の取締役、使用人等が当社の監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制  
監査等委員は、重要会議に出席するとともに、稟議書その他業務執行に関する重要文書を閲覧し、必要に応じてグループ各社の取締役、使用人等に対して報告を求めることができるものとする。  
また、グループ各社の取締役、使用人等は、グループ各社に著しい影響を及ぼす恐れのある事実を発見したときは、直ちに監査等委員会に対して報告することとする。  
内部監査委員会は、監査等委員会に対し、内部監査の結果および内部通報の状況を定期的に報告することとする。

8. 当社の監査等委員会へ報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
当社は、監査等委員会へ報告した者に対し、当該報告を行ったことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨をグループ各社に周知徹底する。
9. 当社の監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針  
当社は、監査等委員がその職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、監査等委員の職務の執行に必要でないと思われる場合を除き、速やかに処理する。
10. その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査等委員会は、会計監査人および内部監査委員会と定期的に情報交換を行い、必要に応じて連携を図り、実効的な監査業務を遂行する。

## **(6) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要**

1. コンプライアンス体制  
グループ各社は、コンプライアンスが経営上の重要事項であることを認識し、法令、定款、社会倫理および諸規則を遵守した事業活動を展開しております。そのために、コンプライアンス規程を整備するとともにグループ各社の役職員が遵守すべき行動基準を定め、周知・啓蒙および教育・研修を行っております。  
また、グループ各社の役職員が、他の役職員の法令等に違反する行為を知った場合は、内部通報窓口に通報するように義務付け、問題の早期発見と予防に努めております。
2. リスク管理体制  
当社は、リスク管理規程を整備して、グループ各社に係る様々なリスクに対する評価を行い、対応を協議し、必要な措置を講じております。  
また、事業活動に係るリスクを事前に予防、排除、軽減するために取引審査制度を設け、取引前に内部監査委員会が取引の適正性と妥当性について審査しております。
3. 情報保存管理体制  
グループ各社は、株主総会議事録、取締役会議事録、稟議書、その他重要な意思決定に関する文書等を法令および社内規則に従って適正に保存・管理しております。

#### 4. グループ管理体制

当社の子会社は、子会社管理規程に基づき月次で財務状況と業務執行状況を当社に報告しており、所管部署および関係者が状況を確認しております。また、子会社とは定期的に業務執行状況、問題点等について意見交換しております。

#### 5. 監査体制

監査等委員である取締役は、取締役会に加え経営会議やリスク管理委員会、執行役員会およびその他の重要な会議に出席するとともに、稟議書その他業務執行に関する重要文書の閲覧等を通じて業務執行状況を監視しております。

また、会計監査人および内部監査委員会と定期的に情報交換を行い、連携を密にして監査の実効性を向上させております。

なお、監査等委員会室を設置し、適宜、監査等委員の職務の補助や監査等委員へ情報提供を行う体制を構築しております。

---

(注) 本事業報告中の記載金額、株式数および比率は、表示単位未満を切捨てて表示しております。ただし、1株当たり当期純利益および1株当たり純資産額は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。



## 連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>18,776</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,571</b>
現金及び預金	3,330	買掛金	2,538
受取手形	560	電子記録債権	652
電子記録債権	1,205	短期借入金	1,452
売掛金	4,842	リース債権	14
契約資産	1,458	未払金	147
リース投資資産	1,099	未払費用	649
商品及び製品	1,116	未払法人税等	63
仕掛品	3,550	未払消費税等	24
原材料及び貯蔵品	1,296	契約負債	426
その他	315	賞与引当金	338
貸倒引当金	△0	工事損失引当金	109
<b>固定資産</b>	<b>8,846</b>	受注損失引当金	2
<b>有形固定資産</b>	<b>3,905</b>	製品保証引当金	97
建物及び構築物	1,904	その他	54
機械装置及び運搬具	948	<b>固定負債</b>	<b>3,697</b>
工具、器具及び備品	182	長期借入金	1,908
土地	502	リース債権	144
リース資産	145	繰延税金負債	383
建設仮勘定	221	退職給付に係る負債	858
<b>無形固定資産</b>	<b>521</b>	資産除去債務	93
ソフトウェア等	521	その他	309
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,419</b>	<b>負債合計</b>	<b>10,269</b>
投資有価証券	3,792	<b>(純資産の部)</b>	
退職給付に係る資産	176	<b>株主資本</b>	<b>15,949</b>
その他	485	資本金	9,019
貸倒引当金	△35	資本剰余金	0
<b>資産合計</b>	<b>27,623</b>	利益剰余金	7,346
		自己株式	△417
		その他の包括利益累計額	1,405
		その他有価証券評価差額金	1,289
		繰延ヘッジ損益	△0
		為替換算調整勘定	105
		退職給付に係る調整累計額	10
		<b>純資産合計</b>	<b>17,354</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>27,623</b>

## 連結損益計算書

(2022年 4月 1日から  
2023年 3月31日まで)

(単位 百万円)

科 目	金 額
売上	19,738
売上原価	16,111
販売費及び一般管理費	3,627
営業外収益	3,174
営業外収益	452
受取利息	2
受取配当金	134
雑収入	48
営業外費用	56
支店資産維持管理費用	11
遊休資産減損	20
経常利益	40
特別利益	72
特別損失	622
その他	6
その他	1
税金等調整前当期純利益	627
法人税、住民税及び事業税	75
法人税等調整額	26
当期純利益	524
当親会社株主に帰属する利益	524

## 連結株主資本等変動計算書

(2022年 4月 1日から  
2023年 3月31日まで)

(単位 百万円)

	株 主 資 本		資 本		株主資本合計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	
当連結会計年度期首残高	9,019	—	7,062	△427	15,654
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△240		△240
親会社株主に帰属する 当期純利益			524		524
譲渡制限付株式報酬		0		9	10
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当連結 会計年度変動額(純額)					—
当連結会計年度変動額合計	—	0	283	9	294
当連結会計年度末残高	9,019	0	7,346	△417	15,949

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当連結会計年度期首残高	1,080	△0	102	52	1,235	16,890
当連結会計年度変動額						
剰余金の配当					-	△240
親会社株主に帰属する 当期純利益					-	524
譲渡制限付株式報酬					-	10
自己株式の取得					-	△0
株主資本以外の項目の当連 結会計年度変動額（純額）	209	△0	3	△42	169	169
当連結会計年度変動額合計	209	△0	3	△42	169	464
当連結会計年度末残高	1,289	△0	105	10	1,405	17,354

# 貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>16,943</b>	<b>流動負債</b>	<b>7,000</b>
現金及び預金	2,287	買掛金	2,285
受取手形	508	電子記録債権	652
電子記録債権	1,046	短期借入金	2,402
売掛金	4,744	リース負債	14
契約資産	1,089	未払金	131
リース投資資産	1,099	未払費用	550
商品及び製品	1,083	未払法人税等	28
仕掛品	3,482	契約負債	386
原材料及び貯蔵品	1,291	賞与引当金	289
未収入金	119	工事損失引当金	110
その他の金	191	受注損失引当金	2
貸倒引当金	△0	製品保証引当金	97
		その他の負債	48
<b>固定資産</b>	<b>8,946</b>	<b>固定負債</b>	<b>3,633</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>3,761</b>	長期借入金	1,908
建物	1,719	リース負債	144
構築物	184	延税負債	369
機械及び装置	860	退職給付引当金	813
車両運搬具	33	資産除去債	93
工具、器具及び備品	176	その他の負債	303
土地	419	<b>負債合計</b>	<b>10,633</b>
リース資産	145	<b>(純資産の部)</b>	
建設仮勘定	221	<b>株主資本</b>	<b>14,068</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>503</b>	資本剰余金	9,019
ソフトウェア等	503	資本剰余金	0
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,682</b>	その他の資本剰余金	0
投資有価証券	3,314	<b>利益剰余金</b>	<b>5,465</b>
関係会社株式	826	利益準備金	261
関係会社出資金	0	その他利益剰余金	5,204
長期前払費用	11	繰越利益剰余金	5,204
前払年金費用	162	<b>自己株式</b>	<b>△417</b>
その他の金	402	評価・換算差額等	1,188
貸倒引当金	△35	その他有価証券評価差額金	1,188
		繰延ヘッジ損益	0
<b>資産合計</b>	<b>25,890</b>	<b>純資産合計</b>	<b>15,256</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>25,890</b>

## 損益計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位 百万円)

科 目	金 額
売上高	16,398
売上原価	13,356
販売費及び一般管理費	3,042
営業利益	2,816
営業外収益	225
受取利息	0
受取配当金	188
雑収入	48
営業外費用	49
支店雑経	13
遊休資産維持損	20
特別利益	78
特別損失	112
特 別 利 益	399
特 別 損 失	3
特 別 損 失	0
特 別 損 失	1
特 別 損 失	0
当期純利益	402
法人税、住民税及び事業税	9
法人税等調整額	24
当期純利益	368

## 株主資本等変動計算書

(2022年 4月 1日から  
2023年 3月31日まで)

(単位 百万円)

	株 主 資 本							自 己 株 式	株 主 資 本 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金					
		そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金 繰 越 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計			
当 期 首 残 高	9,019	－	－	237	5,100	5,338	△427	13,930	
当 期 変 動 額									
利益準備金の積立			－	24	△24	－		－	
剰余金の配当			－		△240	△240		△240	
当 期 純 利 益			－		368	368		368	
譲渡制限付株式報酬		0	0			－	9	10	
自己株式の取得			－			－	△0	△0	
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)			－			－		－	
当期変動額合計	－	0	0	24	103	127	9	137	
当 期 末 残 高	9,019	0	0	261	5,204	5,465	△417	14,068	

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 金 券 評 価 差 額	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	評 価 ・ 換 算 差 額 等	合 計	
当 期 首 残 高	983	△1	982	14,912	
当 期 変 動 額					
利益準備金の積立			-	-	
剰余金の配当			-	△240	
当 期 純 利 益			-	368	
譲渡制限付株式報酬			-	10	
自己株式の取得			-	△0	
株主資本以外の 項目の当期変動額 ( 純 額 )	204	1	206	206	
当期変動額合計	204	1	206	343	
当 期 末 残 高	1,188	0	1,188	15,256	

独立監査人の監査報告書

2023年5月18日

豊和工業株式会社  
取締役会御中

栄 監 査 法 人  
名 古 屋 事 務 所  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 林 浩 史  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 井 上 友 貴  
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、豊和工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、豊和工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 計算書類に係る会計監査報告書 謄本

### 独立監査人の監査報告書

2023年5月18日

豊和工業株式会社  
取締役会御中

栄 監 査 法 人 所  
名 古 屋 事 務 所  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 林 浩 史  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 井 上 友 貴  
業 務 執 行 社 員

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、豊和工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第185期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前題に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前題に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第185期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、当社の内部監査部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制として会社計算規則第131条各号に掲げる事項を適切に整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人栄監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人栄監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月19日

豊和工業株式会社 監査等委員会

監査等委員 牧 野 康 二 ⑩

監査等委員 渡 邊 一 平 ⑩

監査等委員 金 剛 宣 邦 ⑩

監査等委員 田 中 雅 子 ⑩

(注) 監査等委員渡邊一平、金剛宣邦及び田中雅子は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
単元株式数	100株
公告方法	当社公告については、当社ウェブサイト ( <a href="https://www.howa.co.jp/">https://www.howa.co.jp/</a> ) に掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、中日新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) ※受付時間：土・日・祝日・銀行休業日を除く9:00～17:00 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

### 住所変更等株式に関する手続きのお申出先について

株様が口座を開設されている口座管理機関（証券会社）へお申出ください。なお、特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 未払配当金の支払いについて

受け取られていない配当金がある場合は、支払開始日から3年以内であれば、お受け取りいただけます。その際は株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

単元未満株式（100株未満）は、市場での売買はできませんが、買取・買増制度をご利用いただけます。

#### 買取制度

例) …当社株式を120株保有の場合



#### 買増制度

例) …当社株式を80株保有の場合



### 特別口座で株式を保有されている株主様へのご案内

2009年の株券電子化実施に伴い、株券を証券保管振替機構に預けられていない株式については、特別口座に記録されております。

# 株主総会会場ご案内

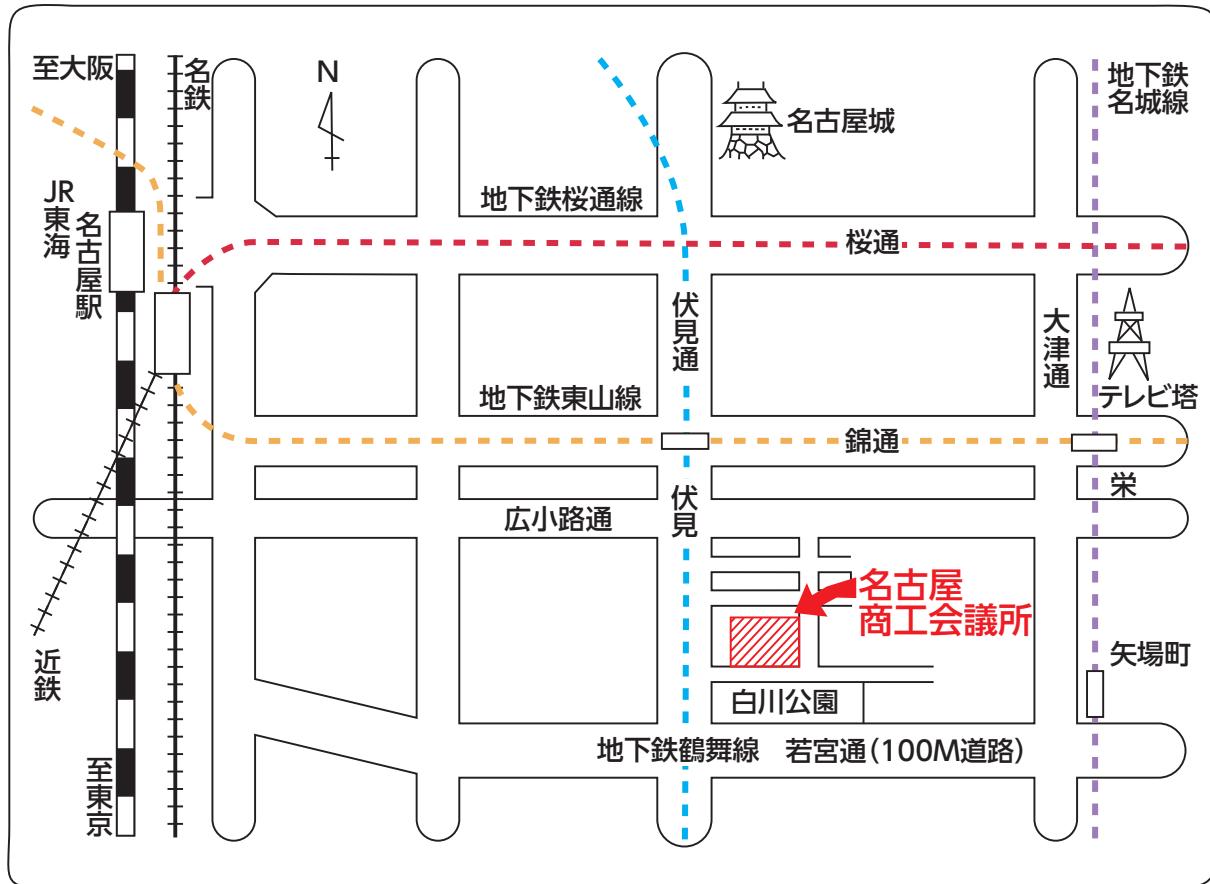
## 会場

名古屋市中区栄二丁目10番19号

名古屋商工会議所 3階 第5会議室 電話 <052>223-5620

## 交通

地下鉄 「伏見駅」下車 5番出口 南へ徒歩10分



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。